

ASHS

Japanese Association of Science for Human Services

対人援助学会 第2回大会

ご案内

大会テーマ

「つながり・絆の持続的発展へ」

2010年

11月6日(土)

対人援助学会

1.大会会場のご案内

■立命館大学 衣笠キャンパス 敬学館(京都府京都市北区等持院北町 56-1)

●立命館大学 衣笠キャンパスへのアクセス

→JR京都駅・近鉄京都駅から

- ・市バス 50(京都駅 B2 のりば) で、立命館大学前バス停下車、
- ・市バス 205(京都駅 B3 のりば) で、衣笠校前バス停下車、徒歩 10 分
- ・JRバス(京都駅 JR3 番のりば) で、立命館大学前バス停下車

→阪急西院駅から

- ・市バス 205(バス停 西大路四条) で、衣笠校前バス停下車、徒歩 10 分

→阪急四条大宮駅から

- ・市バス 55(バス停 四条大宮) で、立命館大学前バス停下車、

→京阪三条駅から

- ・市バス 15、59(バス停 四条大宮) で、立命館大学前バス停下車

→JR二条駅、地下鉄二条駅

- ・市バス 15、55(バス停 二条駅前) で、立命館大学前バス停下車

→JR円町駅から

- ・市バス 15(バス停 西ノ京円町) で、立命館大学前バス停下車
- ・市バス 204、205(バス停 西ノ京円町) で、衣笠校前バス停下車、徒歩 10 分

さらに詳しくは、http://www.ritsumeijp/accessmap/accessmap_kinugasa_j.html

●立命館大学内 衣笠キャンパス 敬学館へのアクセス



※敬学館は衣笠キャンパスの南西部分にあります。

さらに詳しくは、http://www.ritsumeijp/campusmap/map_kinugasa_j.html

2.大会日程

大会テーマ:「つながり・絆の持続的発展へ」プログラム概要

10:30-10:40	開会挨拶 中村 正(第2回大会 大会委員長)
10:50-12:20	ポスターセッション (敬学館 教室)
12:30-13:20	休 憩
13:30-14:30	基調講演:「障害を持つ人への援助と共生」 浜田 寿美男(立命館大学特別招聘教授・奈良女子大学名誉教授)
14:40-16:10	ワークショップ 1つのみ受講できます。 ●団 士郎(立命館大学) 「『対人援助学マガジン』の可能性—WEB 雑誌連載執筆の面々—」 ●望月 昭(立命館大学) 「学会を100倍利用する方法:「対人援助者」が学会・学会誌で発表する意味」 ●飯田奈美子(多言語コミュニティ通訳ネットワーク共同代表) 「対人援助のコミュニケーションについて考える—対等性、固有性、アドボカシー(仮)」他
16:20-17:50	シンポジウム 3: 「対人援助における「身体と生活」—共に在ることをめぐる児童自立支援の現場との対話」中村正(立命館大学)
18:00-18:20	会務総務
18:15-20:00	レセプション (於: レストランカルム 立命館大 衣笠キャンパス内)

3.参加方法

■費用

		大会参加費
会員	事前お振込み	2000 円
	当日参加	2500 円
非会員	事前申し込み	2500 円
	当日参加	3000 円

■事前申し込み方法

・大会事前参加申込要項を事務局まで、FAXまたは E-mail でお申し込みください。

※レセプション 懇親会 18:15 より、立命館大学内、レストランカラム (大会の会場のご案内の地図参照) にてレセプションを行います。参加費は、当日の参加受付と同時に受付予定です。

4.個人研究発表募集

ワークショップ、ポスター発表の2種類です。学会員の皆様はふるってご応募ください。

- ・ワークショップ、ポスター発表を行う方は、事前に申し込みを行ってください。
- ・ポスター発表の主発表者は、発表内容をポスター形式で掲示してください。それを元に発表者と質問者の間で、ポスター前にて、質疑応答をしていただきます。
- ・申し込みでは、**発表方法(ワークショップ or ポスター)**、**タイトル**、**発表者**、**所属**を、ご記入のメール、FAX、郵送で申請していただきます。→**申し込み先** info@humanservices.jp
- ・申し込み期限は、2010 年 10 月 30 日です。

【 対人援助学会からのお知らせ 】

学会誌

論文を投稿ください。

学会といえば、学会誌！

いよいよ、論文の受付が始まります

学会誌でも、私たち対人援助学会のチャレンジは続きます！

対人援助学会の学会誌の投稿受付が近日中に始まります。ここでは、まず第1報として、明らかにした発刊方針と特色についてお伝えします。いわゆる「査読つき論文」を発行する学会誌です。執筆者は、大学や研究所などに属する研究者だけでなく、様々な対人援助現場で活動している実践者の投稿を歓迎します。そして、紙媒体を持たないWEB上での発表形式をとります。その理由は、

①サーキュレーションの速さ：遅滞なく報告や要請を社会に行うことが必要なコンテンツも、投稿から発刊までの時間の短縮が可能になり、緊急アピールといった機能も担うことができます。

②フィードバックや討論のしやすさ：WEBですので、発表された論文に対するコメントやフィードバックなどを自由に追加、特集などを組むことができます。

③利用者の拡大：昨今の学生や研究者の先行論文の検索においては、「ネット検索」という方法が最も一般的であり、関係する探索システムとの連携により、広い範囲の読者を想定しその利便性と同時にアクセス頻度を高めることが期待できます。つまり「対人援助学研究」は、世界のどこからでも無料自由にアクセスすることが可能になります。

④経済的コスト：印刷等のコストからの解放により、コンテンツや編集作業に労力を集中することができます。また、個別論文の字数の自由度にもつながります。

■ 投稿の申し込み ■
近日中に、ホームページ上で受け付け開始の告知がございます。会員の皆様、奮って申し込みください。

研究会

どなたでも参加できます。

対人援助職者のつながりから、社会にチャレンジします。

定期的な研究会で、常に対人援助学会は動いています。

対人援助学会研究会が始まりました。第1回は7月23日(金)、テーマを「家事紛争

解決における調停の役割」とし、田原由喜子さん(おおさか介護サービス相談センター 専門相談員)大阪家庭裁判所本庁家事調停委員)が登場してくださいました。昨年度、大阪家庭裁判所で扱った調停事件は9500件を超え、ますます増加傾向。「入り口はあるが出口の見えない調停」漂流する調停」と揶揄されながらも、当事者をエンパワーしながら問題解決を目指す調停委員の姿が語られました。調停委員という形でとくに裁判員制度よりもとくに昔に裁判に一般市民が調停委員として参加していた日本。その「調停」という制度をアメリカ等がマネをし始めていたりする話も驚きでした。白黒つける西洋の文化とは違う日本の調停というグレーで、家族的な着地点が評価されているということが発見できました。

次回、第2回の研究会のご案内

●日時：9月10日(金)19時から21時

●場所：キャンパスプラザ6F第1会議室

●テーマ：少年サポートとは何かー彷徨う少年からみえてくる自立への支援

●ゲスト：北谷多樹子さん(大阪府警察本部生活安全部少年課 岸和田少年サポートセンター少年補導職員)

内容：北谷さんは児童福祉、障害者福祉、家族支援の現場に心理職として関わってきました。その経歴を活かし、現在は少年サポートセンターで仕事をされています。そもそも少年サポートとは何か、少年の現実からみえてくる私たちの人間環境や家族関係はどんなものなのか、発達の可塑性を徹底して対人援助に活かすとはどういう厳しい緊張をはらむのか等の興味津々の話をさせていただきます。

※事前申し込み不要、無料でどなたでもご参加頂けます。年4回ほどの研究会を予定。

【 対人援助学会からのお知らせ 】

マガジン
援助職者の連
載を楽しもう。

いままでの学会になかったもの！
ネットから誰でもゲット！

対人援助職者の形式にとられない、そして連載限定の
雑誌！

対人援助学マガジンが創刊されました。

「対人援助学会」ホームページにアクセスし
て、マガジンをダウンロードすると、どなた
でもダウンロードして見ることが出来ます。

そのページ数は約80ページ。そのポリー
ムと内容の充実具合から、事務局には「これ
だけのものをタダでいただいているんです
か？」と問い合わせが来たほど。その内容は、
福祉現場の話、出版現場の話、心理現場の
話、幼稚園現場の話、映画の話…などなど、
バラエティに富み、まさに雑誌です。

そして、このマガジンはすべて連載で、連
載限定として学会員が執筆者となっていま
す。年4回、発刊予定。例えば、5年も継続
すると、執筆者には、新書1冊分の原稿が
たまるという仕組みになっています。そつ
うドリーム企画でもあるのです。いざ、本
を出そうと執筆するのは大変ですが、少
ずつ書き貯めていくという形は、

多くの人にチャンスが広がります。

インターネット上ということで、紙面の制
限もありません。創刊号もポリウムがあ
りましたが、第2号から、新しく執筆され
る方も決まってきました。そんな新連載
予告としては、世界遺産屋久島の地でネイ
チャーガイドとして、そしてその会社の代表
として活躍されている大野睦さんです。島
をあげての祭り「くしま森祭り」を企画、
運営、マスコミ、行政での環境、観光の要職
もされています。

会員で、執筆したいという方がおられま
したら、ご相談ください。読んで、書いて、
楽しむマガジンにも、こうご期待！

ホームページにアクセスしにくい方は、現
在、マガジンを製本したものが数に限りは
あるのですがございます。1000円(印刷、
製本代)でおわけしています。事務局にご連
絡ください。

対人援助学会第2回大会の翌日 11月7日(日)には、引き続き

「2010 対人援助フォーラム 動き出した新しい人間科学の実践」を開催いたします。

基調講演『対人援助職の職場における組織マネジメント』をはじめとして、多数の分科会が行われます。

立命館大学大学院応用人間科学研究科校友会メンバーの講師による最先端の対人援助実践に
かかわる分科会を行います。

詳細は、立命館大学大学院応用人間科学研究科校友会 HP <http://www.r-gsshsa.jp/> をご覧ください。

◆対人援助学会に関するお問い合わせ◆

■ 対人援助学会事務局 (〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学大学院応用人間科学研究科 内) 担当: 鈴木 TEL: 075-465-8375 FAX: 075-465-8364

■ 事務担当 (〒540-0021 大阪市中央区大手通 2-4-1 リファレンス 内) TEL/FAX: 06-6910-0103

E-mail: info@humanservices.jp

■ 対人援助学会ホームページ <http://www.humanservices.jp/index.html>

・編集 千葉